

金融市場動向

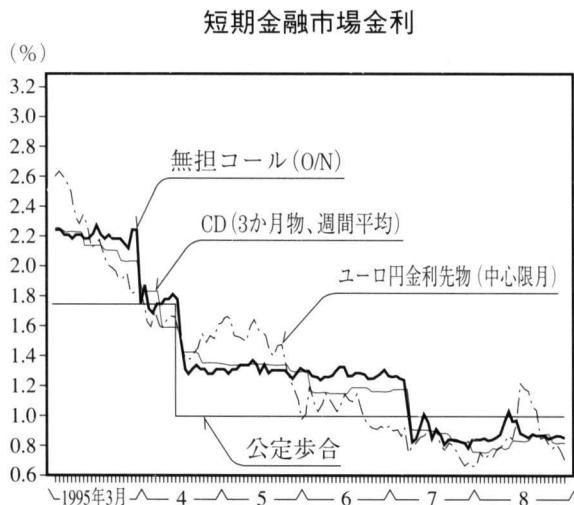
—平成7年8月—

(平成7年9月18日)

1. 短期金融市場

8月中の無担コール・オーバーナイト物レートは、概ね横這いで推移した。CD（譲渡性預金）3か月物レートは、上旬以降強含みで推移した後、月末にかけては小幅の低下となり、0.8%弱の水準で越月した。一方、ユーロ円金利先物（3か月物、金利ベース）は、中旬に1.2%を挟む水準にまで大きく上昇したが、月後半には月初の水準に低下した。

コール・プロパー手形市場資金平均残高（全国）は、42兆5,507億円と前月（44兆6,046億円）に比べ減少した。

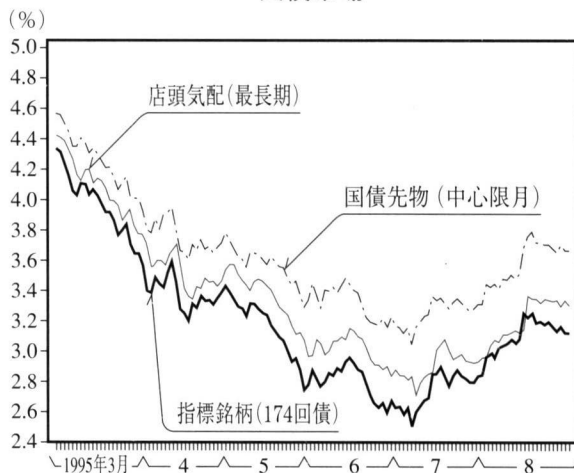


2. 資本市場

8月の長期国債利回り（174回債）は、円高

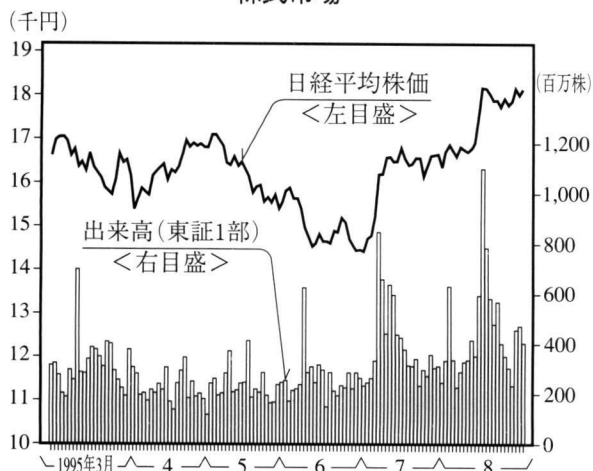
の修正等を受けて月初より上昇したが、下旬以降は金融緩和観測の高まり等から低下し、結局3.140%で越月した（前月末2.850%、国債先物中心限月利回り<17日に95年9月限から12月限に限月交代>は3.692%<前月末3.333%>で越月）。国債の出来高は、現物（店頭取引）、先物ともに前月を上回った。

既発債市場利回り
—国債市場—



株式市況（日経平均株価）は、円高の修正等を受けて中旬にかけ上昇した後、下旬以降は高値圏で推移、結局18,117円と前月末（16,677円）を大きく上回って越月した。株式出来高（東証1部、月中1営業日平均）は、4.51億株（速報）と前月（4.01億株）を上回った。

株式市場

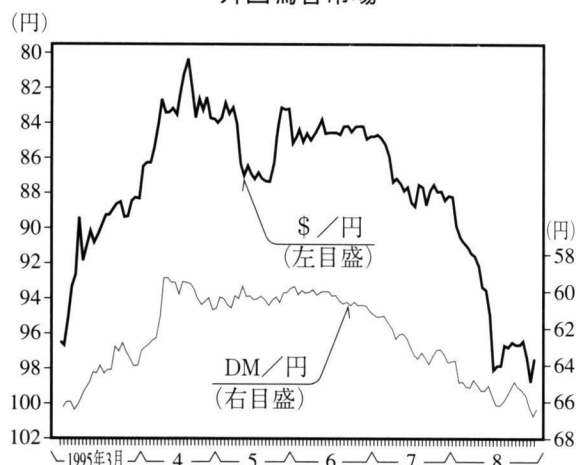


8月の国内公募普通社債は、引き続き企業の起債意欲が強く、月中3,200億円（7月4,040億円）と高水準の発行を継続した。一方、国内エクイティ市場での発行（8月払い込み分、増資を除く）は、一部に大口発行がみられたものの、全体としては引き続き低水準の発行となった（7月145億円→8月900億円）。

3. 外国為替市場

8月の円の対米ドル直物相場（東京市場）は、大蔵省による「円高是正のための海外投融資促進対策について」の発表や海外市場での日米協

外国為替市場



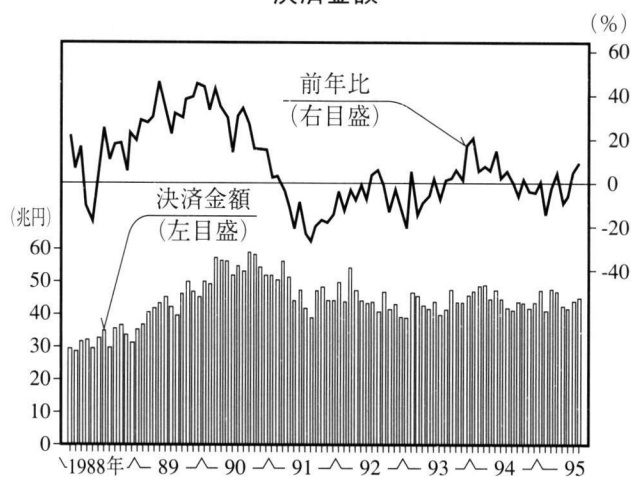
調介入を受けて月初に90円台に下落した。その後も中旬の海外市場における日米独等の協調介入等から下落基調を辿り、結局97.46円（17時時点）で越月した（前月末88.17円）。円の対独マルク直物相場（東京市場）は、月中を通じて下落し、結局66.34円（17時時点）で越月した（前月末63.82円）。

この間、東京外国為替市場の出来高（円対米ドル、直物および先物・スワップ計、1営業日平均）は238.1億ドルと、前月（222.2億ドル）を上回った。

4. 決済

8月の資金決済の金額（1営業日平均）をみると、手形交換高（東京）は前年同月を大幅に下回った（前年比△42.0%）が、全銀システム取扱高は前年同月を上回った（同+9.4%）。この間、外為円決済交換高は前年同月を上回った（前年比+25.7%）。また、国債の決済金額（1営業日平均）については、移転登録、振込口座振替ともに前年同月を上回った（移転登録：前年比+51.8%、振込口座振替：同+4.4%）。

決済金額



(注) 1. 1営業日平均。
2. 手形交換高(東京)、全銀システム取扱高、外為円決済交換高の合計額。

5. 資金需給、金融調節

8月の資金需給をみると、銀行券要因は2,128億円の余剰(前年同月7,393億円の余剰)となった一方、財政等要因が1兆3,845億円の不足(同1兆544億円の不足)となったことから、全体では1兆1,717億円の不足(同3,151億円の不足)となった。

こうした状況下、日本銀行は売出手形期日落ち等により資金を供給した。

9月の資金需給(国債発行織り込み前)を窺うと、銀行券要因は2,000億円程度の不足(前年同月1,132億円の余剰)となる一方、財政等要因は、受入面で源泉所得税を中心とする税揚げや厚生保険料の受け入れが見込まれるものの、支払面で地方交付税交付金や国債償還等の支払いが嵩むこと(かさ)から、1兆2,000億円程度の余剰(同2兆7,105億円の余剰)となり、全体では、1兆円程度の資金余剰(同2兆8,237億円の余剰)となるものと予想される。

6. マネーサプライ、銀行券、預金・貸出

7月のM₂+CD平残前年比伸び率は+2.9%(速報)と前月に比べ0.4%ポイント低下した。また、広義流動性の平残前年比伸び率は+3.7%(速報)と前月に比べ0.2%ポイント低下した。

8月の銀行券平残前年比は+4.5%と前月(+4.3%)に比べ若干上昇した。

8月中の金融機関の預金・貸出動向をみると、預金平残(実質預金+CD、都銀、地銀、地銀Ⅱ)の前年比は+2.7%と前月比伸び率が上昇した。一方、総貸出平残(都銀、長信、信託、地銀、地銀Ⅱ)の前年比は+1.2%と、前月に比べ0.4%ポイント上昇した(4か月連続の前年比プラス)。

7. 貸出・預金金利

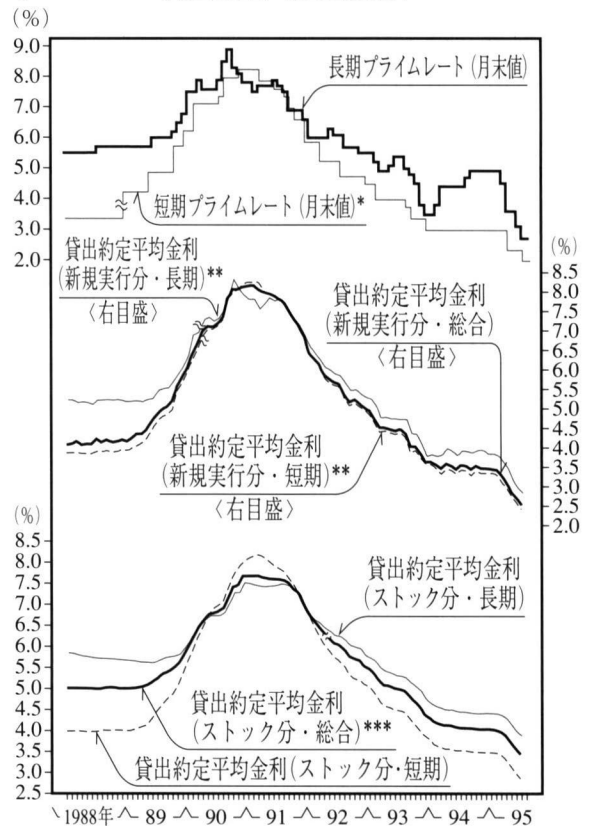
7月中の貸出約定平均金利(全国銀行)をみると、新規実行分については、短期が6か月連

続、長期が8か月連続で低下した(短期:前月比△0.177%、長期:同△0.137%)ため、総合でも9か月連続で低下し(同△0.161%、6月2.701%→7月2.540%)、既往ボトムを更新した。

また、ストック分についても、短期、長期、当座貸越ともに低下し(短期:前月比△0.133%、長期:同△0.106%、当座貸越:同△0.156%)、総合では25か月連続で既往ボトムを更新した(総合:6月3.575%→7月3.454%)。

この間、7月の定期預金金利(自由金利分<1千万円以上>、3か月以上6か月未満の全銀受入金平均)は、前月に比べ大きく低下した(6月1.136%→7月0.843%)。

貸出金利(全国銀行)



(注) * 1989年1月以降は都市銀行の中で最も多くの銀行が採用した金利。

** 1990年4月以降は地方銀行Ⅱを含む。

*** 1992年4月以降は当座貸越を含む。

(調査統計局)